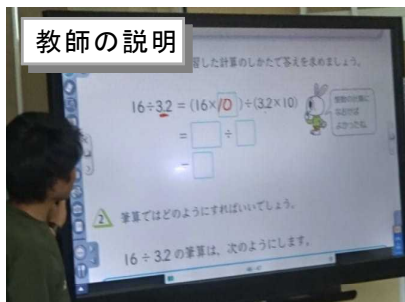


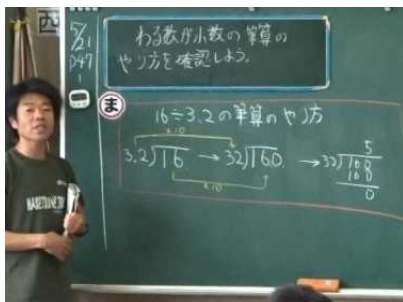


校内授業研・相互参観WEEKに感謝！

5年1組算数，小数のわり算。研究主任の成島先生が「教えて考えさせる授業」の基本スタイルを提案してくれました。水曜日の研究協議での皆さんの感想も踏まえて振り返ると…。



教師の説明



復習問題，既習確認後，課題を提示し，結論を説明。

事後の協議では「この場面では，自己評価（説明できる・分かる・少しわかる・わからない）をさせる必要があったのではないか。」との意見が出されました。



理解確認

教科書のりんご問題を使っての理解確認。ペアになって互いに，先生から説明を受けたことを説明し合いました。写真のようにペアでの活動は習慣化しており，どの子も真剣に取り組む素晴らしい姿が見られました。そして，机間指導で状況を確認。この場面では，全体での確認も必要だったかもしれません。（ペアになる前に方法の例示を行う，または，ペア学習後，代表ペアに発表させる）まとめの板書とりんご問題をよく比較しながら一般化できたらもっと良かったかなと思います。



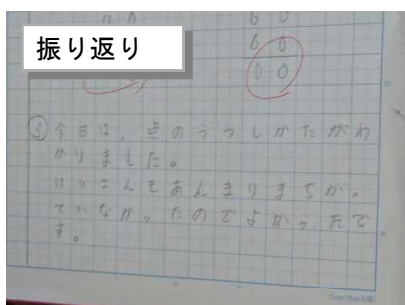
理解深化

グループになって鉛筆問題に取り組みました。必要に応じて友だちに相談する姿が見られました。成島先生とも話しましたが，「理解深化」で何をすれば良いかが難しい。習得型授業とは言っても「教えて練習させる授業」ではないはず。ここで必要なのは困難度査定と状況把握。「典型的な間違いを取り上げ，検討させる（あらかじめ予想 OR 状況の見取りで）」「筆算のやり方（型）はわかったが，それはなぜだったかな？」など，理解を深める問題を工夫しなければならないなと思いました。

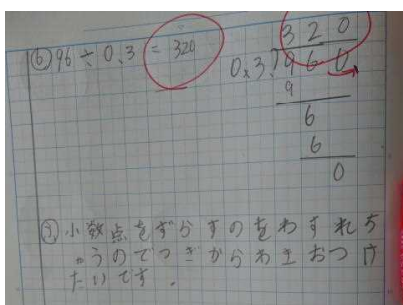


鉛筆問題の答え合わせ。素晴らしいのは，早く終わった子が暇にならないように，追加問題を配った左のシーン。

さらに全体での共有をじっくり行くと，発表した子たちの細かなミスが指摘されたかな？



振り返り



振り返りが書ける子はまだまだ少ないのが現状。4段階自己評価で，理解度を確認することも取り入れたいと思います。

子どもたちが「分かる実感」がもてる授業を追究していきましょう。